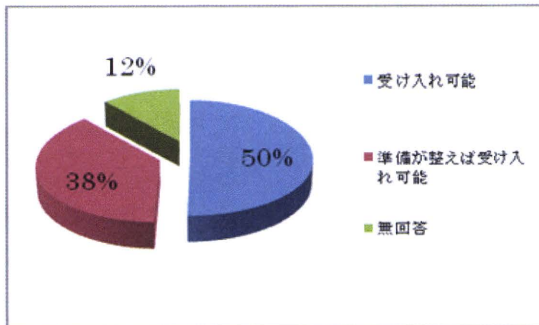


「今後、支援依頼があった際に HIV 陽性者の受け入れが可能か」の質問には、「受け入れ可能」と回答したのは 50%で、「準備が必要」38%、回答なし 12%で、「受け入れ不可能」と回答した受講生はいなかった（図 4）。

図 4 受け入れについて



「準備が必要もしくは不可能」と回答した方に、その理由を問うと、「研修を受講した個人のみではなく、ステーション全体のスタッフ教育が必要」という意見が多く、「地域で診てくれる医師の存在が必要」「職務感染事故発生時の対応や補償が確立していないと難しい」といった意見もみられた。その地域で受け入れを経験した訪問看護師からの事例紹介に関しては、「具体的な支援内容を聞くと自分達のステーションでも受け入れが可能であると感じた」「在宅療養においては保健師の介入も必要である」といった意見があった。研修全体を通しての意見では、多くの受講者が「疾患に対する正しい理解の重要性」を感じており、「各県などで研修会を開催してほしい」「今後、HIV 陽性者の受け入れ要請が増加してくることを考え、定期的に学習する場がほしい」といったような研修会の定期開催を希望する意見が多くみられた。また、地元のスタッフに協力を得たことで、病院側と地域側の状況が明確になり、地域によって違う職務感染事故発生時の対応方法も正確に情報提供が行えた。

研究 2. 長期療養患者の家族の支援ニーズに関する研究

研究の同意が得られた 6 名の家族より聞き取り調査を実施した。

(1) 患者背景

在宅療養患者 1 名、入院患者 5 名。初診時 CD4 値 $200/\mu\text{l}$ 以下 5 名、 $200/\mu\text{l}$ 以上 1 名。全員が HAART を導入し、VL は検出感度未満が 5 名、40 コ

ピー以上 1 名。要介護状態となった要因は HIV 脳症、PML などの AIDS 発症によるもの 5 名、他疾患によるもの 1 名。PS グレード 3 が 3 名、4 が 3 名。要介護状態となった期間は 3 年未満 1 名、3 年以上 5 名で、うち 1 名は 5 年以上であった。

(2) 介護者背景

主たる介護者は母親 3 名、妻 2 名、妹 1 名。主たる介護者の年齢は、70 歳代 2 名、60 歳代 1 名、50 歳代 2 名、40 歳代 1 名であった。病気の告知に関しては主たる介護者以外に告知をしている人がいたのは 1 名で残り 5 名は他に告知者がいない状況であった。

(3) 介護者への調査

6 症例の介護者に対し、以下の項目に付き聞き取り調査を行った。①現在の療養生活を選択された理由 ②現在の療養の満足度とその要因 ③在宅療養が困難な理由 ④在宅療養を可能にする要因 ⑤過去において介護者自身が入所による療養を継続するうえで困難だったことは何か ⑥現在介護者が困っていること ⑦介護者に対する支援ニーズ ⑧将来、入所での療養生活を継続していくうえでの不安 ⑨その他

質問①に対して

- ・ HIV 陽性であることが理由に受け入れ先がない現状で、地域の保健師からも理解を得られず、介護をする人も不在であり、在宅での療養は困難であると感じた。
- ・ 現在のような病状（寝たきり）では介護が困難である。

質問②に対して

- ・ 全員が満足していると回答。特に、入所している施設が介護者の自宅から近いと面会に行きやすく、満足度に影響していた。

質問③に対して

- ・ 共通して回答があったのは、介護する人がいない、在宅療養では十分な介護をしてあげられないであった。

質問④に対して

- ・ 周囲（身内）の理解
- ・ 在宅で受けられるサービスの拡大（特定の訪問看護ステーションだけではなく、受け入れてくれる事業所の拡大や、訪問時間・回数の増加な

ど)

- ・経済的な支援。

質問⑤に対して

- ・介護者の体調不良時にどうするか困った。
- ・3 か月ごとという短期間で転院をくりかえしているため、本人・家族にとっては負担である。今後、病院側の事情などによりそういった形も打ち切られてしまうのではないかと不安がある。

質問⑥に対して

- ・介護者自身の健康が維持できなくなった際のこと
- が不安である。

質問⑦に対して

- ・患者の病状が固定した中で、今後どういう生活が待っているのか、介護をいつまで継続できるのかといった将来の不安が常時存在し、介護者に対する精神的なケアを望む。
- ・介護者はいろいろな思いを言いだせないでいる。介護自体のしんどさのみではなく、感染してしまった患者への思いや介護者自身も現状を受け入れて生活していくことの大変さや不安など、それを理解してくれる人や環境がほしい。
- ・経済的な支援

質問⑧に対して

- ・今入院している施設からも、いつか打ち切られるのではないか。
- ・本来その施設では入院の適応のない患者が入院することで、医療者（施設）に迷惑がかかるのではないか。
- ・転院先によっては医療者への不満・要望があるが、受け入れてもらっている立場上、言いがらい。
- ・長期的に受け入れてくれる施設が見つからないので、「行く先がない」という不安がある。
- ・介護者の加齢に伴い、いつまでこの生活を継続できるかという不安。
- ・介護者が不在（他界）となった以降の介護をどうするか。
- ・在宅で介護を継続している介護者からは、「現在の生活を始めた時点より生活上は変化し、介護者も高齢となっているため、患者本人が同意するならば後は施設の入所を検討したい」とい

う意見があった。

質問⑨に対して

- ・自宅から比較的近い距離で長期的に受け入れてくれる施設が見つかってほしい。
- ・医療者の理解が深まってほしい。
- ・拠点病院の役割・機能に期待したい。
- ・病院間の医療、看護の質の差を少なくしてほしい。
- ・偏見、差別がなくなってよかったといえる社会になってほしい。

研究 3. 要介護状態にある HIV 陽性者の看護に関する研究

他の研究結果から「知識不足による受け入れに対する不安」がすでに明確化されているため、知識不足への介入として、大阪府下の長期療養型病床を有する施設で勤務する看護管理者・看護師を対象とした研修会の実施を検討した。

考察

研究 1. 訪問看護ステーションへの介入

(1) 研修後アンケート調査から

いずれの地域においても多くのステーションが HIV 陽性者の受け入れ経験がなく、受け入れに関して準備性が整っていない状況での研修会への参加であったが、研修会を通して HIV 感染症に関する知識を得る機会となっている。前年度と同様に、研修前調査は施設に対して実施し、研修後調査は受講者個人に対して実施したため回答者が異なってはいるが、研修後では「受け入れ可能」が 50%、「準備が整えば可能」をあわせると 80%と上昇を認め、かつ、不可能であると回答する受講生はいなかった。受講者の中には、「事業所内のスタッフへ伝えていくことの重要性」についての意見もあり、受講者を通して変化した意識や正しい知識や理解の普及を期待し、かつ、実際の際には個別な学習会の開催などが今後、必要と考

(2) 受け入れ関連要因

受け入れに関連した要因として、地域の医療機関やかかりつけ医との連携の構築、職務感染事故発生時の対応の明確化が挙げられていた。在宅療養支援をしている際に、何か困ったことが発生し

た場合の相談先が明確になっていないことは、受け入れに関しての不安の増大につながると考える。現時点では多くの場合、HIV 陽性者の支援を依頼した病院（ブロック拠点や拠点病院など）が直接窓口となり、連絡・相談対応をしているが、今後はもっと身近な地域の医療機関やかかりつけ医を介した連携を可能とする体制が求められていた。職務感染事故発生時の対応においては、地域によって方法がさまざま、その周知方法も、小冊子としてまとめて文章で明確化しているところ、行政と連携して取り組みをしているところなどがあつたため、それを研修会という場で情報伝達することができた。

（3）研修プログラム

研修プログラムにおいては、知識の普及に加え、開催地域で受け入れ経験を持つ訪問看護師からの事例紹介を行った。また、各地域で活躍する医師・看護師・コメディカルの協力を得て、地域主体の研修会を開催した。この事は参加者にとって、より身近で具体的なものとして捉えられ、研修を通して地域の情報交換、連携の場ともなった。

研究2. 長期療養患者の家族の支援ニーズに関する研究

（1）家族が抱える不安

今回6症例の聞き取り調査の結果から、家族が抱える不安の1つとして「今後の見通しのなさ」があげられた。この背景に、長期的に入所できる施設がないことの不確かさや、介護者が今後も介護を継続できるかの不安をあげられる。高齢社会、核家族化となった現在、在宅療養を継続していくことは地域社会の協力、十分な医療サービスの提供がなければ困難である。そして、HIV 感染症の有無にかかわらず、どの疾患であれ自立困難な状況になった際に入所できる施設が少ないのも現状である。しかし、HIV 感染症の場合、受け入れ経験が無いこと、施設側の知識不足、職員全体の理解が得られないことなどにより、受け入れ先が見つからず拠点病院等で短期間の転院を繰り返すといった現在の療養の在り方は、患者や家族にとって決して安心できるものではない。また、現在の療養を継続していることに対し「満足である」と回答されていたが、今以上の選択肢がない

ことを考えると、本来感じる満足とは言い難いと考える。今後、医療者およびケアに従事する者が、疾患に対する正しい理解を促進させ、長期的に受け入れ可能な施設の開拓は急務であり、間接的ではあるが支援ニーズの1であると考えられる。そこで、次年度は研究③として長期療養型病床を有する病院で勤務する看護職に対し、介入的なアプローチを行う。

（2）支援ニーズ

支援ニーズとして高かったのは精神的支援であった。介護をする家族の多くは病気をもつ患者ではないため、医療の対象者として見られにくい。しかし、患者と同様に HIV 感染の告知を受け、心理的動揺を経験し、自立困難となった患者の介護を担っていくという変化を体験する。そして、病気の告知の問題などから相談できる相手や内容が限定されているなど、相談者が不在という場合もあり、そのような中で直面する精神的な負担に対して支援が必要である。今後は臨床心理士と連携をし、家族支援体制を検討していく。

結論

研究1. 訪問看護ステーションへの介入

- ・今回研修会を実施した地域においては HIV 陽性者の受け入れ経験は少なく、受け入れに関しては職員全体の理解と協力が不可欠であった。
- ・研修会への参加によって、各個人の受け入れに関する意識は変化し、受け入れ困難と感じた人はいなかった。
- ・研修会は HIV 感染症という疾患の知識の普及によって受講者の意識の変化をもたらしており、受け入れを促進するうえでの直接的介入として効果を得ている。
- ・効率的な研修会の開催のため、地域主体のプログラムへと変更したことで、現地のスタッフ間での交流の場ともなり、研究目的以外の効果がみられた。

研究2. 長期療養患者の家族の支援ニーズに関する研究

- ・患者の年齢から考え、第1の介護者は親、妻となることが多い。
- ・現在の療養形態を選択している理由は介護力の

不足であり、要介護度の高い状態であれば、なお、在宅での介護は困難な状況であった。

- ・現在の療養に満足されている反面、長期的な受け入れ施設がないことへの負担、不安は大きい。
- ・介護者の健康問題や加齢は、今後の介護に対する不安の要因である。
- ・介護者が直面している問題は多様であり、かつ、抱える精神的負担は大きく、今後心理面での支援が必要である。
- ・医療者に対する疾患の正しい理解の促進、長期的に受け入れが可能となる施設の開拓が急務である。

健康危険状況

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

1) 原著論文による発表

該当なし

2) 口頭発表

下司有加：訪問看護ステーションにおける HIV 陽性者の受け入れに関する研究。第 24 回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2010 年 6 月

下司有加：自立困難な HIV 陽性者の家族の支援ニーズに関する研究。日本慢性看護学会、北海道、2010 年 6 月

イベント検査等における予約システムの利用促進について

研究代表者：白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター長）

研究協力者：小野田敦乙（FM 大阪）

幸田 進（ビッツ・システム）

平石 尚（RAMPAGE）

研究要旨

携帯電話を用いた HIV 検査予約システムについては、東京都南新宿検査・相談室において常設でのアクセス解析・効果測定等を実施しているが、これまで他の地域あるいはイベント検査等での活用事例がなく、アクセス解析・効果測定等の実績もなかった。そこで本研究では、比較検討の対象とするために、今般、大阪及び広島においてイベント等と連動した携帯電話による予約システムの運用を実施したので併せて報告する。

研究目的

携帯電話を用いた HIV 検査予約システムは、現在、東京都南新宿検査・相談室において常設でのアクセス解析・効果測定等を実施（報告書 11 「携帯を使った服薬支援“だ・メール”および検査予約システムの開発」を参照）しているが、他の地域およびイベントでの携帯を用いた HIV 検査予約システムを実施し、アクセス解析や効果測定等を行い、本システムの開発と運用の改善に資する。

研究方法

HIV 検査予約システムの運用にあたっては、想定しうる検査場所及び実施内容等は数多くあり、その組み合わせも無数に考えられるが、現実には検査の実施主体である地方公共団体及び関係団体等の柔軟な協力体制が無ければ実施は不可能である。そこで、次の 2 つの観点から地方公共団体及び関係団体等を抽出した。まず、第一に、通常は予約不要で実施している定期あるいは臨時の即日検査であり、しかも携帯電話予約システムとの連動が可能であること、第二に①検査日時については、複数日か 1 日限りであるか、②検査とイベントとの組み合わせについては、検査自体か、あるいは他のイベント等との組み合わせか、③検査対象者については、対象者を限定するのか、あるいは特定しないのか、④告知方法については、様々な広報活動が実施可能かどうか等である。これらにつき検討した結果、①大阪府及び大阪市の委託により「NPO 法人 HIV と人権情報センタ

ー（Japan HIV Center、以下、JHC）」が大阪市浪速区の「大阪検査相談・啓発・支援センター

（Communicating hub of test, counseling, and support at Namba。以下、chotCAST なんば）」において毎週実施の日曜日即日検査と②広島県および広島市が中心となって実施する臨時のイベント検査に連動した HIV 検査に本予約システムが可能な対象として選択し、種々の検討の結果、実施することとなった。

研究結果

研究方法で述べた観点から検討し選択した大阪と広島に付き、研究結果を、それぞれ記載する。

（1）大阪での実施内容

- 1) chotCAST なんばにおける JHC の日曜日即日検査の現状 chotCAST なんば（大阪市浪速区）において実施されている検査の中で、日曜日については予約無しの即日検査と前後の検査相談を JHC により実施されているが、毎回 30 名の定員に対し、多い時には 100 名近い検査希望者が集まるなど、幅広く人気の高い検査会場である。
- 2) 設定及び検討事項 今回は東京都の南新宿検査場の様に定期的検査での携帯予約システムの導入ではなく、新たな取り組みとして、有料ライブ・イベント等と連動した携帯による検査予約システムの構築を試みた。具体的にはイベントの来場者に限定して携帯 QR コードを配布し先着順で限定した人数を受け付ける事とした。

また追加検査の費用負担については収益や募金の一部を充てることとで、HIV 検査の受検料は無料とする内容を提案し、関係者から快諾され実施の運びとなった。

- 3) 他のイベントとの連携 東京FMおよびFM大阪で放送中の「GAL ラジ・愛です! 社会貢献」(<http://GAL-radio.com/>) という番組の中の「愛です! エデュケーション・キャンペーン」というコーナーがある。このコーナーのコンテンツは、教育という視点から若年層の感染予防の現状をレポートし、若年層に知識を得られる環境がどれだけあるのか、何故、若年層は性に対し無防備(無知識)であるかなどを、若年層のオピニオンリーダーである雑誌モデルらがリポーターとなって報告し、彼女たち自身も学んでいくものであり、現在、実施中である。この一環として、平成 22 年 11 月 30 日に大阪「なんば hatch」(湊町リバープレイス)において、「GAL ラジ presents 愛です! Sweet&Sexy プレミアムトークライブ Vol. 2 in OSAKA」の開催が決定したことから、主催者である FM 大阪の協力を得て、このイベント参加者を対象とした検査予約システムの導入を関係者とともに検討した。なお、FM 大阪は厚生労働省主催のエイズデーのレッドリボンライブへの協力を機に大阪を中心とする関西エリアの HIV/エイズ啓発に力を入れており、2008 年から厚生労働省後援のもと啓発キャンペーン「愛です! FM OSAKA」をスタートさせ、併せて chotCAST なんばの広報協力、大阪の各団体(自治体を含む)の実施キャンペーンまたはイベントへの協力、自社番組(レギュラーコーナーとして月から金に放送)などを実施している。

- 4) 運用形態 導入に当たってはイベント関係者で定例会議を開催し、最終的に全てで共通認識事項として次のようなルールを定めた(図 1)。

図 1 優先無料 HIV 検査概要/寄付金について

優先無料 HIV 検査体制について

概要 : 来場者は先着 100 名まで、優先的に無料検査を受ける事ができるシステムを構築。予約には携帯によるシステムを導入設置。

届応募 : 来場者全員に、検査予約携帯サイトへの QR コードシールを配布。ステージ中に、モデルからその事を告げ、応募誘因を図る。

予約開始 : 2010 年 12 月 1 日(水)より予約開始

検査日程 : 予約できる 2010 年 12 月 19 日、2011 年 1 月 9 日、16 日、21 日、30 日、計 5 日間

QR コードチラシ(両面) 100mm×74mm×700枚

寄付金について

現在、大阪検査相談・啓発・支援センターの日曜日検査では、定員の関係から毎回数十人をお断りしている現状(2009年:2310人 中622人(27%)が受けられない)ことや、平日夜間や休日などの受検者が受けやすい体制作りを目指し、入場者からの寄付などを実施することにも街を巻き込んだ募金活動を展開し市民の参加を促す。

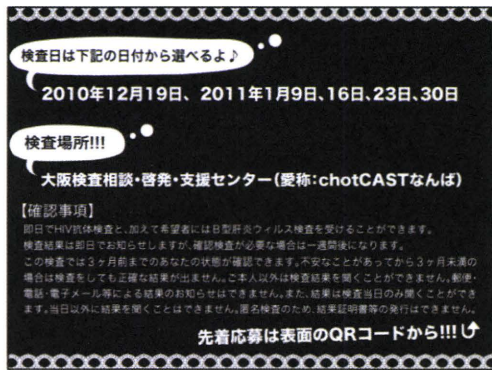
入場料金¥1,500円(税込)の内、500円をチャリティプラットホームを通して寄付とする。

特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター

HIV と人権・情報センターは、エイズによって露見・差別から苦しめられている人を 直接支援するために、1988 年に大阪で発足した民間ボランティア団体。感染者や感染不安をもつ人たちを、HIV の感染経路である血液製剤や性行為、薬物注射などの違いによって区別することなく、等しく支援活動の対象としている。そして感染に関する啓発活動とともに、社会的偏見の克服と共生を最も大切な目標として運動している。

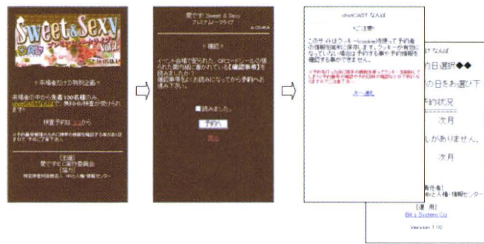
- ① 検査予約対象者 イベント参加者に限定した。QR コードの使い回し等によるイベント参加者本人以外の他からのアクセスを防止するため、配布チラシ用の QR コードは全て異なるものとし、各 QR コードでの予約は 1 回限りとした。
- ② 検査日程及び予約人員 平成 22 年 12 月 19 日、平成 23 年 1 月 9 日、同月 16 日、同月 23 日の 4 回は携帯による予約枠は各 10 人とし、同月 30 日の予約枠は 60 人で計 100 人とした。
- ③ 検査予約への誘導 配布チラシから QR コード経由でイベント用特設サイト (<http://www.HIV-event.jp/osaka/0101130/>) へ誘導し、HIV 検査予約システムへの誘導を想定した。配布チラシ(図 2)及び携帯サイトの内容は大阪イベント向け予約の流れ(図 3)のとおりとし、アクセス管理は JHC の担当者が行う事とした。

図2 大阪イベントのチラシ



5) 検査予約状況 イベント内容は報告書(資料04)のとおりであり、来場者も約450人と盛況であった。しかしながら、イベント終了以降、携帯からの予約アクセスが無い状況が続いたため、システムの調査を行った。

図3 大阪イベント向け予約の流れ



イベント用特設サイト

<http://www.hiv-event.jp/osaka/20101130/>

HIV検査予約システム

<http://www.e-reservation.jp/mobile/fmohjc/>

※画面の内容はイベント終了後のものをPC上からハードコピーしたものであり、イベント実施中のものとは若干異なる。

コンピュータの予約システム自体に異常は認めず、QRコードにも異常は無かった。その後、70枚用意したQRコードを添付した配布チラシが大量に残っていた事実が判明し、配付枚数を確認した結果、QRコード添付配布チラシは配付予定だった約450人の参加者のうち約110人(約24%)にしか配付されていないことが分かり、この配付数は、イベント終了後に実施したアンケート回答者の数とほぼ同数であり、QRコード添付配布チラシがアンケート回答者にしか配付されなかったと

推察された。なお、このアンケート調査(巻末資料1の来場者アンケート⑥、⑦)によれば、有効回答108人のうち95人(88%)が女性であり、15歳以下が25人、16歳~18歳が53人の計78人(72%)が中高生の年代であった。今回のイベント内容がHIV/エイズに特化したものではなかったことや、アンケート調査結果等から勘案すると、実際にHIV検査の予約がゼロであったという結果も有り得たのかもしれない。

6) 課題 今回、綿密な企画と準備により、①予約対象者、②検査人数、③予約方法はイベント参加者のみに限定する事をイベントの広報などで一般に周知したことから、プレミアム効果等によって予約が同時に集中するなどによる混乱を関係者は危惧し、システム上で対策も講じていたが、予約がゼロという惨憺たる結果であった。前項を含め予約ゼロの要因については現在も調査中であるが、イベントに関連したHIV検査の予約の進め方につき今後の検討課題とした。

(2) 広島での実施内容

1) 広島でHIV検査イベントの現状 広島では、広島県及び広島市並びに社団法人広島県臨床検査技師会等を始めとする各種団体が協力し、毎回100名規模の検査イベントを開催しており、特に平成21年には「AIDS 愛です! 広島」という名称で、厚生労働省等が実施している規模に匹敵するトーク&ライブ(図4)をエイズデーイベントとして開催するなど地方公共団体を中心に各種団体、関係者が一丸となって熱心にHIV/エイズ対策に取り組んで来た数少ない地域である。

図 4 愛です！広島 (平成 21 年度)



2) 設定及び検討事項 広島市内におけるイベント

検査は6月の検査普及週間及び12月の世界エイズデーを中心に実施して来たが、それに加えて、新たな試みとして他の季節として、若者に馴染み深い「成人式」、「バレンタインデー」、「卒業式」の検討を行った。今回は時期が近接した「成人式」と「バレンタインデー」に焦点をあて、イベント検査の組み立てや、広報手段としてメディア、HPに加え、街頭以外でも普及啓発活動やアンケート調査等に関心を引く媒体として地域のフリーペーパー・タウン誌、広島出身の著名アーティストのブログ等の協力を検討した。さらに、広報の段階で携帯電話での予約を模擬体験して貰う試みを提案し、関係者の快諾を得て、実施となった。最終的には、1月10日(祝日)の広島市の「成人祭」にあわせて「成人祭 de エイズ検査」、2月12日(土曜日)に「バレンタイン de エイズ検査」の実施が決定された。

3) 広報媒体 当初は平成 21 年度に実施したトーク&ライブのようなイベントと連動させて大々的に検査イベントを打ち出してはどうかといった提案もされたが、準備期間も限られていること等から、イベントは連動させずに検査のみを実施し、携帯による予約システムの利用について検討した。まず、検査の広報の媒体を検討し

た。県内で発行されているフリーペーパー・タウン誌等を調査したところ約20種類を確認出来たが、そのほとんどが内容は旅行、スポーツ、グルメクーポン、地域限定のミニコミ誌といった位置づけであり、HIV/エイズの記事やHIV検査の告知は馴染まないと思われるものが多かった。例外として、唯一、広島のクラブアンドストリートカルチャーマガジンで、最新のアーティスト情報やファッション情報等を掲載し県内をはじめ中国地方の大手CD/DVD レンタル店やレコード店等で数多く配布されている「RAMPAGE」というフリーペーパー(図5)

(<http://www.web-RAMPAGE.com/pcTop.html>)があり、それに着目した。

図 5 フリーペーパー-RAMPAGE の表紙



内容および配付場所等から若者が手に取って読む機会が多いフリーペーパーであると考えられ、今回の告知対象に合致していると判断し、広島におけるHIV/エイズの現状や検査予約サイトへのQRコードの掲載等を依頼したところ、フリーペーパーだけでなく関連する媒体での告知も全面的に協力いただける返事を得た。なお、発行元の株式会社RAMPAGEには、USENチャート等で新記録を樹立しBillboard Japan Music Award 2010でも最優秀新人賞を受賞するなどの実績を持つ広島出身アーティストの「TEE」が所属している。

4) 検査イベント及び携帯予約の確実な告知に向けて 大阪での経験により、ある程度の時間をかけて検査及び携帯予約の認知度を高めたいうえで、稼働させるべきではないかとの関係者の意見から携帯での検査の実際の予約は2月12日の「バレンタイン de エイズ検査」のみとするこ

ととした。今回、留意した点は、①「RAMPAGE」誌には、12月発行、1月発行の2回に分けて分かりやすく告知内容を掲載する、②「RAMPAGE」誌の告知内容は常に広島県や広島市の各種広報媒体の他「RAMPAGE」HP等を連動した形でリンクさせる、③携帯予約サイトは予約開始前から公開し予約のバーチャル体験（模擬体験）やその他の情報を調べたりアンケートサイトも盛り込む等で内容を充実させて、アクセスする意欲を維持しアクセスも容易に出来る環境づくりに配慮した、④携帯サイトの内容は掲載する媒体ごとのQRコードを使い段階的に充実させることとし併せてアンケート回答者へのプレゼント等の有無によるアクセス量の変動や人気アーティストのブログ書き込みによる宣伝効果等を分析するといった作業を約2か月間に渡り並行して続けることとなった。

5) 運用形態及び広報計画 以下、時系列で記載する。①12月25日「RAMPAGE」誌1月号の発行（図5）と同時に携帯サイトを公開し（図6）、広島市HPに「成人祭 de エイズ検査」を告知した（図7）。②1月10日「成人祭 de エイズ検査」実施と同時に携帯サイトにアンケートコーナーを追加した（図8）、成人祭参加者全員（約7千人）に当日及び2月12日の検査告知のチラシを配布した（図9）。

図6 公開携帯サイト



図7 広島市HP

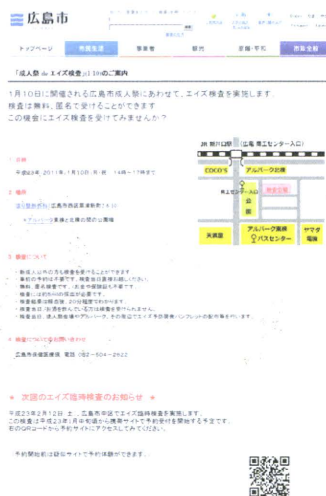


図8 広島イベントのアンケートの流れ

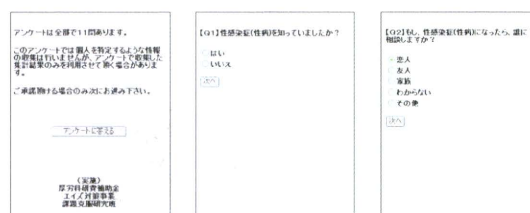


図9 成人祭り de 検査のチラシ



③1月25日「RAMPAGE」誌2月号の発行（図10）と同時に携帯サイトでの予約を開始し、広島県及び広島市HPに「バレンタイン de エイズ検査」を告知した（図11）。また、アンケートのみ回答者には「TEE」のサイン入り待受け画像がプレゼントされた（図12）。④1月31日 県と市の記者クラブを通じ報道機関へ資料を提供した（巻末資料2）。MSM へのアプローチとしてバーとショップ18店舗へチラシの配置（図13左）及びポスター掲示（図13右）を依頼し、大学の保健管理センターを通じて学生への周知を依頼した。広島のwAdsメンバーへ周知協力を依頼、広島FM放送で番組内告知とHPへの誘導を実施した。⑤2月8日「TEE」オフィシャルブログでイベントの情報公開を行った（<http://ameblo.jp/tee-ameba/>）。

⑥ 2月12日 予約者以外にも街頭で検査を募集した。

図 10 RAMPAGE 誌 2月号 図 12 待受け画像



図 11 広島市HP

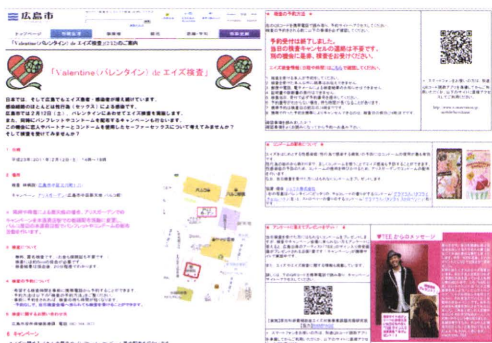


図 13 バーとショップへのチラシとポスター

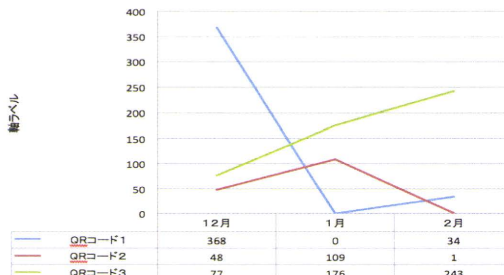


6) 検査予約等の結果 ①1月10日実施の「成人祭 de エイズ検査」では、26人が検査を受検し、全員がアンケートに回答した（巻末資料3）。ただし、新成人と思われる受検者数は6名であった。②2月12日実施の「バレンタインデー de エイズ検査」では検査の受検者数は78人であった（携帯予約24人、街頭募集54人）。天気予報では全国的な寒波による雪とされ、実際、早朝からの降雪のため、開催も危ぶまれたが、正午ごろから天候が回復し、検査は予定どおり実施した。なお、アリスガーデンでの啓発活動は中止した。③1月25日の告知以降のアンケート回答数は162人であった（巻末資料4）。その中で受検者のアンケート回答数は74人であった。④検査を受検し、かつアンケートを回答し

た方には、当初からの告知どおりコンドーム1箱をプレゼントし好評を得た（1月10日に26個、2月12日に74個）。

7) 集計データについて ①携帯によるアンケート 1月10日「成人祭 de エイズ検査」でのアンケート（巻末資料3）と1月25日以降のアンケート（巻末資料4）の回答を比較すると、男女の比率は前者が6：4に対して後者が3：7であった。年齢分布の比較では、1月10日は30代が少なかったことを除けば、両者間で大きな差異は特に認められなかった。Q2.「もし、性感染症になったら、誰に相談しますか？」に対して、1月10日は「友人」、「恋人」が多かったのに対して、1月25日以降では「家族」、「わからない」が多かった。②QRコード別アクセス件数 3種のQRコードを用意し、月別のアクセス状況を比較できる様に設計した。それぞれのアクセス数を図に示した（図14）。

図 14 QRコード別月別アクセス数の推移

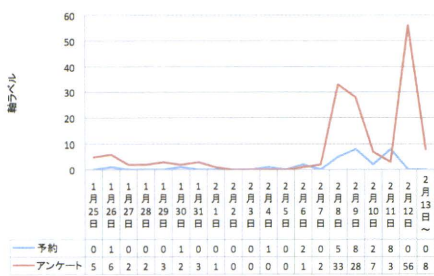


QRコードー1、-2、-3は、RAMPAGE 1月号、成人祭 de エイズ検査、RAMPAGE 2月号にそれぞれ掲載された。

実際には、12月25日発行のRAMPAGE 1月号、1月10日の「成人祭 de エイズ検査」チラシ、1月25日発行のRAMPAGE 2月号にQRコードを掲載した。この中には関係者の試験的なアクセス件数もカウントしてしまうため厳密には正確な比較は出来ないが、概ねの傾向を把握することが出来た。ただ、12月25日発行のRAMPAGE 1月号に掲載のQRコードでのアクセス件数が2月になって再度増えた理由は不明である。③携帯予約・アンケート件数 いずれも共に2月8日～9日にかけて大幅な伸びを示しているが、これは2月8日の午後から「TEE」オフィシャルブログに「今月号のRAMPAGEで紹介されて、

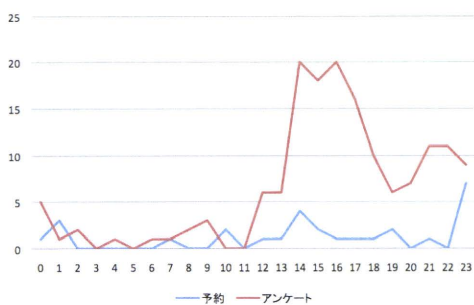
昨年から自分も協力させてもらっているイベントの詳細かつ、情報をUPします」という内容が掲載された効果を反映しているものと推測される(図15)。

図15 携帯予約・アンケートの推移



関係者に聞いたところ同ブログには、8日掲載後の半日間だけで、12,650件のアクセスがあり、その約6割が広島からだったとのことであった(<http://ameblo.jp/tee-ameba/day2-20110208.html#main>)。また、2月12日にアンケートの数が一番高くなっているのは、検査会場での回答者である。④時間帯別予約・アンケート数 時間帯別に見ると、予約・アンケート数(図16)は、14時から17時のアンケート数の突出は、前項と同じく検査会場での回答者である。予約に関しては他の調査等でも報告されている様に、深夜に多いことが明らかとなった。

図16 時間帯別予約・アンケート数の推移



考察

携帯電話を用いたHIV検査予約システムは、現在、東京都南新宿検査・相談室において常設でのアクセス解析・効果測定等を実施(報告書11「携帯を使った服薬支援“だ・メール”および検査予約システムの開発」を参照)しており、一定の成果を得つつある様に考えられ、試行によって課題も徐々に明らかに成り対策も、その都度実施し対応しているが、今

回、東京以外での携帯電話を用いたHIV検査予約の実施と、検査促進の効果を期待してイベント等に連動した携帯予約を試みた。大阪では東京でも人気の高いカリスマモデルで成功しているラジオ番組を中心に構成された大阪でのイベントに連動させ会場参加者を対象に検査への誘導を図ったが、結果に記載したように予約実数はゼロであった。この原因については結果でも述べた様にQRコードを手にしたイベント参加者にHIV検査受検のモチベーションがほとんど無かった等が考えられた。一方、広島ではエイズデーと異なる日として成人の日あるいはバレンタインデーをターゲットとし、広報媒体も広島以西の若者に広く注目されていると予想されるRAMPAGE誌を選び、広島県、広島市とも協働のもと緊密に連動するシステムを構築する事で、携帯でのアクセス数も多く得られ、HIV検査でもある程度の携帯での予約件数が得られ、携帯からアンケートの回答も得られた。システム自体のトラブルは現時点で観察されて居らず、多くの機種に対応できたものとする。QRコード別にアクセスをある程度識別できるので、同時進行で対応、効果を評価が可能であった。大阪と広島の試行によって、本システムの利点と欠点がある程度示され、効果を上げるための方策の方向性も明らかにされたと思われた。

結論

今回、大阪ではイベントに連動したHIV検査の携帯による予約システム、広島では広島県、広島市、関係団体の緊密な連携の下、地元を中心とするフリーペーパーを主軸に各HPと連携した広報のネットワークを構築し、QRコードを用いた検査予約は初期的ではあるが、一定の成果をあげたと考えた。本システムはHIV検査の導入に有意義であるかも知れない。今後、本システムの改良と発展のためにさらなる研究が必要と考える。なお、本研究で協力頂いた多くの関係者に、この場を借りて深謝致します。

健康危険状況

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

該当なし

巻末資料 1 大阪イベント報告書

①表紙



実施報告書

2010.12.20

愛です! EDUCATION CAMPAIGN実行委員会

②実施概要

実施概要	
■イベントタイトル	: GALラジ Presents 愛です! Sweet & Sexy プレミアムアワードライブVol.2 in 大阪
■主催	: 愛です! エデュケーション・キャンペーン実行委員会
■後援	: 厚生労働省、FM OSAKA、ジェックス株式会社
■協力	: 大阪府(予定)/特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター/NPO法人チャリティープラットフォーム
■開催日程	: 2010年11月30日(火)
■開催時間	: 18:00開場 18:30開演予定
■会場	: なんばHatch 大阪市浪速区1-3-1
■来場者数	: 449人
■出演者(MC)	: 板橋理美/鈴木家々/Lie/杉山佳那恵/みずきてい
■ゲスト	: 池上千寿子先生(ふれいず東京)/白飯琢磨先生
■スペシャルゲスト	: てんちむ
■ゲストライブ	: 三浦大知/Juliet/Rina/あやまんJAPAN
■入場料	: ¥1,500税込、自由席、ドリンク代別途¥500必要 ※未成年見入場不可
■チャリティー	: ○このイベントでは入場料金1500円のうち500円をNPO法人チャリティープラットフォームを通じ、大阪HIV検査相談・啓発・支援センターの日報即日無料検査に寄付させていただきます。 ○来場者には後日、優先無料でHV検査が可能。※別項参照



③出演者/愛です! EDUCATION CAMPAIGN 活動メンバー

出演者/愛です! EDUCATION CAMPAIGN 活動メンバー

<p>板橋理美</p> <p>トランド情報マガジン「EDGE STYLE」やギャル雑誌「ez」で活躍するママモデル。 結婚・妊娠・出産を経験したママモデルとして活躍し、主婦業こなす一面もある。野菜ソムリエのジュニア野菜ソムリエの資格を保有している。</p>	<p>鈴木家々</p> <p>雑誌「Popteen」モデル。ファッションやメイクページ、単独企画ページ等で活躍中。 彼女の愛くるしいキャラがギャル界から支持されており、彼女のプライベートをブログでアップすることも彼女の魅力。</p>	<p>杉山佳那恵</p> <p>雑誌「BETTY」/「EDGE STYLE」モデルのヘアを得意とするMPD法人「ビューティー企画」等で、活躍中。 大阪、岸和田出身。独特のキャラクターで、支持されている。</p>
<p>Lie</p> <p>雑誌「EDGE STYLE」レギュラーモデル。 ファッションSTYLEが多くの支持を得ている。 得意の食生活プロジェクト「ウケル!」プロデューサーとして、健康体操、ギャル食料理教室、長靴や魚の加工品の開発など活動中。</p>	<p>みずきてい</p> <p>「Popteen」で活躍するモデル。 Popteenではインキモデルと称し注目モデル。 美容情報に長けたブロガーとしても有名な彼女は、「GROD2」プロジェクトに常に関与し、TOP10入りしているほど支持されている。</p>	<p>池上千寿子</p> <p>16年、HIVの予防啓発、HIV陽性者のケアを目的とするNPO法人「ふれいず東京」を設立し、代表となる。2005年、社会的に目覚ましい活動している女性に贈られる「エイボン教育賞」を受賞。 2006年度「第20回日本エイズ学会学術集談」では、女性として初めての会長職を務める。</p>

④ゲストアーティスト/モデルプロフィール一覧

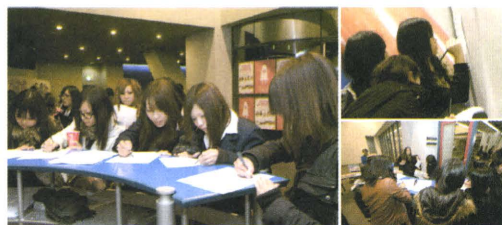
ゲストアーティスト/モデルプロフィール一覧

<p>三浦大知</p> <p>1987年8月24日生まれ 身長: 175cm 血液型: AB型 好きなアーティスト: Usher, Justin Timberlake '97年 Fokkerとしてデビュー。 '00年から声楽期の一時活動休止。 '05年3月20日「Kiss in Quin」で活動を再開する。若いながらも歌唱力とリズム感を持ち、歌って語れる次世代のエンターテイナーとして日本のみならず、世界のクリエイター・ダンサー達から注目を浴びている。</p>	<p>Juliet</p> <p>(左:ユミ、中央:マイコ、右:ハル)</p> <p>2006年度のデビュー同時期に所属した原宿GALユニットというスタイルで登場し、「ナツラジ」をリリース。等身大ランパン10巻を制作し「ギャルがギャルをプロデュース」という斬新なコンセプトや、メンバーと小森純との 共作による歌謡などが話題となる。そしてデビューからわずか3ヶ月でアルバム「ラブをリリース」こちらも同じコンセプト、プロネット時代の快挙を達成。Julietの知名度も一気に高まった。2010年には「ハルラジ」ハルラジと並立して制作しリリース2曲とも着うたランキング初登場2位をマークし「ナツラジ」「フユラジ」「ハルラジ」の着うた累計200万DLを突破</p>
<p>Rina</p> <p>1983年4月13日 血液型:A型 大阪出身の歌手モデル。 16歳よりブティックモデルや歌手モデルとして活動開始。 2007年より「小悪魔apple」専属モデルとして高校生や20代女性を中心に絶大な人気があり現在活動中。「小悪魔apple」では2007年発行分の4ヶ月分と、2008年12.8月号の表紙を占めるカリスモデルを務める。</p>	<p>あやまんJAPAN</p> <p>(左:ルーキータエ、中央:ファンタジスタくらた、右:あやまん監督)</p> <p>原田 JAPAN(現在はザックJAPAN)、原 JAPAN に次ぐ日本3次JAPAN の一つであり、夜な夜な彼女たちのホームグラウンドである穴本木、西船場界隈で試合を行う夜のお楽しみ番組として観客の注目を集めている。メンバーは監督のあやまんがスカウトしており「ビジュアル組」「女子大生組」「海外組」などジャンルの幅は広く観客総勢100人以上が所属している...という噂もある。コンパニオンや伴舞的な存在でなく全メンバーが1人1人得意な踊りで対戦相手を楽しみ、さらに「ちよっとエッチな攻撃で相手を完全ノックアウト」 '09年「はい!はい!はい!はい!はい!はい!はい!」でCDデビュー。</p>
<p>てんちむ</p> <p>1982年11月19日 血液型:A型 6歳より芸能活動を始める。NHK教育番組「天才てれびくんMAX」では2004年〜2006年の3年間、てれび娘としてレギュラー出演。その後、TVドラマでは準主演という役柄を熱演し話題の役役となる。芸能活動の中にはプロビアでの仕事も多く、ジュニアアイドル、グラビアなどでは連載コーナーも設けられており、また、ブログで活動している実業家仲間、DVDも発売するなど、ジュニアアイドル内ではトップクラスの人気を誇る。女子小中学生向けのファッション雑誌のモデルとしても活躍し、最近ではギャル雑誌などにギャルモデルとして出演している。</p>	

⑤実績紹介

実績紹介

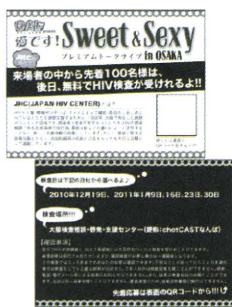
アンケート回収・検査予約QRコード配布



来場者の皆さんにアンケートを配布し、アンケートに書いて頂いた方には、優先的に無料検査予約が出来るQRコードを配布しました。



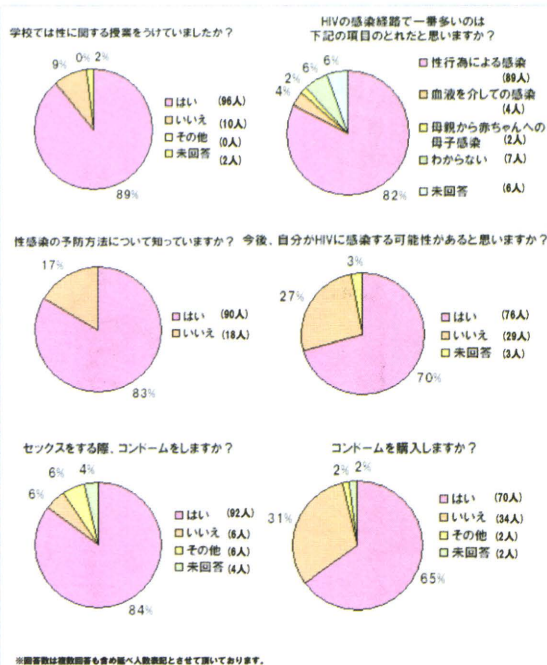
<アンケート用紙>



<検査予約QRコード>

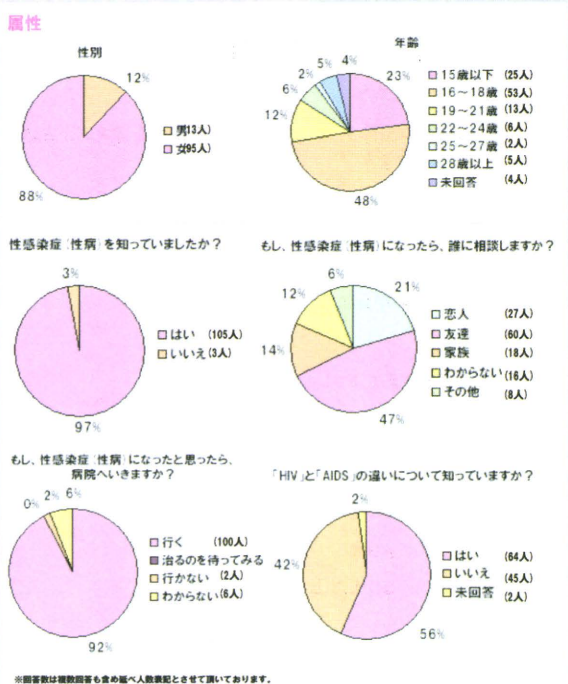
⑦来場者アンケート2

来場者アンケート②



⑥来場者アンケート1

来場者アンケート集計①



⑧メディア露出1

メディア露出

MNS産経ニュース

ニュース：生活

教育 | 福祉 | からだ | 環境 | トrend | 話題 | 暮らし | 余暇 | 写真 | この記事でブログを書く | 印刷 | プログラム | メール | メッセ | 印刷

唯一エイズ増の日本…若者予防、カリスマモデルが啓発世界デー (1/2ページ)

2010.11.29 11:42

先進国で唯一、エイズの新規患者数が増加傾向にある日本。12月1日の「世界エイズデー」にあわせて、人気カリスマモデルらがHIV(ヒト免疫不全ウイルス)や性感染症の正しい知識、予防の重要性などを若者たちに呼びかける啓発イベントが30日、大阪市浪速区のなんばHatchで行われる。若年層のオピニオンリーダーである彼女らを起用することで「若者にメッセージを確実に届けたい」(担当者)考えで、入場料の一部はHIV検査のために寄付する。

患者最多…感染20~30代7割

HIVやエイズに関する啓発活動を行う、厚生労働省後援のプロジェクト「愛です！エデュケーション・キャンペーン」の一環。これまでにもカリスマモデルらが、感染者や患者を支援するNPO法人「ぶれいず東京」代表の池上千寿子さんとともに東京や神楽川の高校を訪れて、生徒たちに性感染症の現実や自分の体を守る大切さを伝える活動などに取り組んできた。

今回の大阪でのイベントには、1児の母であり、若年層だけでなく主婦からの支持も高い 眞橋理美さん(23)や、大阪府岸和田市出身の杉山佳那恵さん、鈴木奈々さんら人気雑誌で活躍するカリスマモデルが勢ぞろい。池上さんとエイズ研究の第一人者、白飯琢磨・大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター長も参加して啓発トークやプロジェクトの活動紹介を行うほか、3人組のギャルユニット「Juliet」らアーティストによるライブもある。



若年層だけでなく主婦の支持も高いカリスマモデルの眞橋理美さん

⑨メディア露出 2



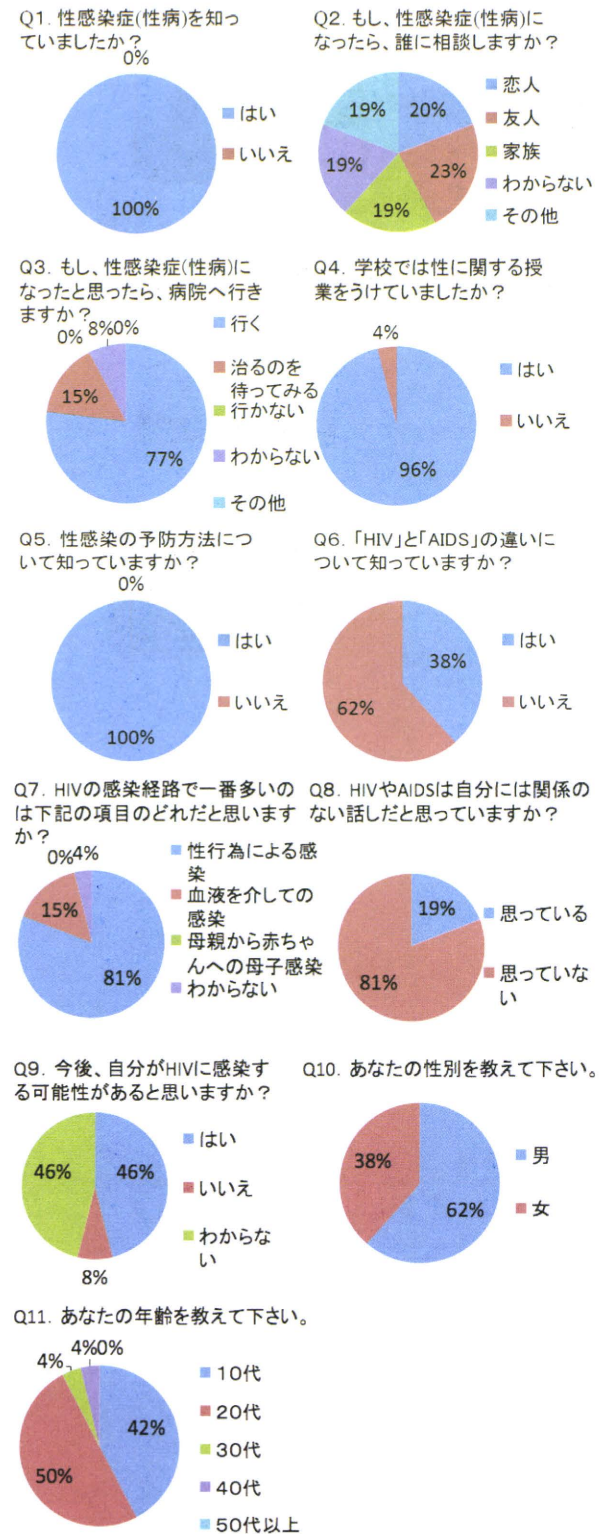
卷末資料 2 「Valentine (バレンタイン) de エイズ検査 (仮称)」 企画書

- 1 目的**
エイズ臨時検査と啓発キャンペーンを開催することで、エイズ感染の予防方法の周知や患者・感染者に対する差別や偏見の解消、エイズ検査の受検促進等、エイズに対する正しい知識の普及啓発を図ることを目的とする。特に一昨年から続く受検者数の減少に歯止めをかけるとともに、感染の拡大が懸念されている若年層を中心に普及啓発を図る。
- 2 主催**
広島市、広島県、社団法人広島県臨床検査技師会、特定非営利活動法人りょうちゃん工
- 3 開催日**
平成 23 年 2 月 12 日 (土) 13 時～18 時 (臨時検査は 14 時～18 時)
- 4 内容及び場所**
(1) 臨時 HIV 抗体検査
林病院 (中区三川町 3-21)
(2) 啓発キャンペーン
広島市西新天地公共広場 (通称: アリスガーデン 中区新天地) 及びその周辺
- 5 臨時 HIV 抗体検査の実施内容**
(1) 検査内容
検査方法: 迅速 (即日) 検査
事前予約: 要 (但し、予約していない者も受検可能)
受検予定者数: 100 人程度
(2) 事前予約
「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班」が構築した、検査予約システム (インターネットが利用可能な携帯電話から HIV 検査の予約を行えるシステム) を使用し、1 月 25 日 (火) から予約受付を開始する。また、受付人数は下表のとおりとする。

区分	受付時間帯	予約受入者数
1	14:00～14:30	10
2	14:30～15:00	10
3	15:00～15:30	10
4	15:30～16:00	10
5	16:00～16:30	10
6	16:30～17:00	10
7	17:00～17:30	10
	合計	70

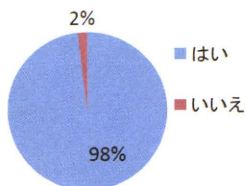
30 分刻みで 10 人の検査予約を受け付ける (予約者 70 人 + 未予約 (飛び込み) 者 30 人程度、合計 100 人程度)。
- 6 啓発キャンペーン**
アリスガーデン内に小テントを用いたブースを設け、エイズ啓発に係るパネル展示を行うとともに、広場に集まる方 (特に若者) に啓発パンフレットや啓発物品やコンドーム等を配布し、エイズに関する正しい知識の普及啓発に努めるとともに、受検勧奨を行い受検希望者を臨時検査会場へ誘導する。

卷末資料 3 「成人祭 de 検査」 (1 月 10 日) でのアンケート結果 (26 名)

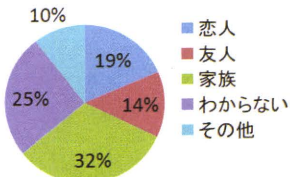


巻末資料4 「バレンタインデーde エイズ検査」(2月12日)でのアンケート結果(78名)

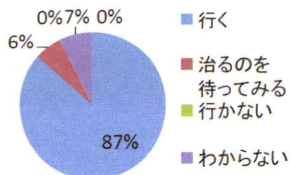
Q1. 性感染症(性病)を知っていましたか?



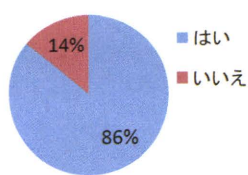
Q2. もし、性感染症(性病)になったら、誰に相談しますか?



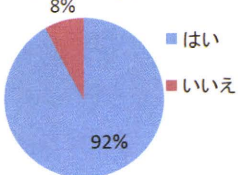
Q3. もし、性感染症(性病)になったらと思ったら、病院へ行きますか?



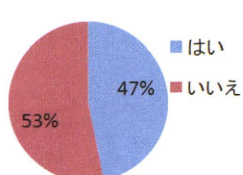
Q4. 学校では性に関する授業をうけていましたか?



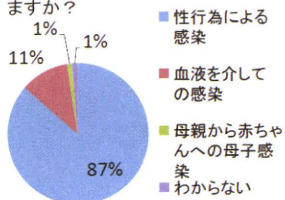
Q5. 性感染の予防方法について知っていますか?



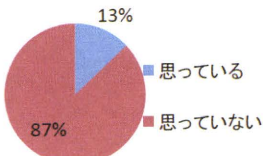
Q6. 「HIV」と「AIDS」の違いについて知っていますか?



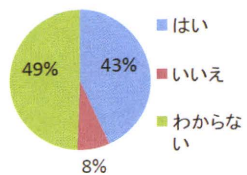
Q7. HIVの感染経路で一番多いのは下記の項目のどれだと思いますか?



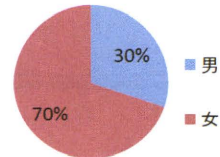
Q8. HIVやAIDSは自分には関係のない話だと思っていますか?



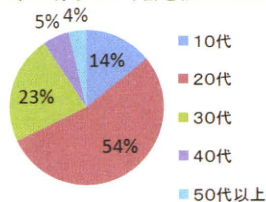
Q9. 今後、自分がHIVに感染する可能性があると思いますか?



Q10. あなたの性別を教えてください。



Q11. あなたの年齢を教えてください。



厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

**HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究
平成 22 年度 研究報告書**

発行：平成 23 年 3 月

発行者：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班

研究代表者 白阪 琢磨

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14

国立病院機構大阪医療センター

HIV/AIDS 先端医療開発センター

TEL 06-6942-1331
